

# 介護事業者の事故対応

## 溺れた利用者を浴槽から出そうとして何度も溺水

－浴槽から引き揚げるのは無理－

### ■一人で対応する時の方法は？

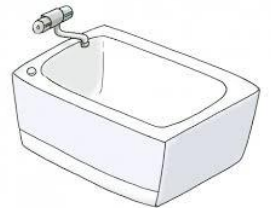
週2回、Mさん(78歳・女性)が利用しているデイサービスは、定員9人の小さな事業所です。Mさんは、要介護2で認知症もなく、軽い左半身麻痺があるものの比較的自立度の高い利用者です。ある時、いつもの家庭用の一人用浴槽でゆっくり入浴をしていましたが、スタッフに「もう時間ですよ」と急かされたため、浴槽の中で立ち上がろうとしました。その時、突然ふらついて転倒し浴槽のお湯に頭まで浸かってしまいました。そばに居た職員は慌ててMさんを抱きかかえて、浴槽から引っ張り上げようとしたのですが手が滑ってMさんは再び浴槽に落ちて潜ってしまいました。パニックになった職員はもう一度引っ張り上げようとしたのですが、再びMさんを落としてしまい、浴槽から上げることができませんでした。Mさんは大量の水が肺に入り、呼吸停止となり救急搬送されました。

## お湯から頭を浮かせて呼吸を確保して助けを呼ぶ

### 【事例から学ぶ対応のポイント】

#### ■職員1人では利用者の身体を浴槽から引き上げられない

安全な一人浴槽であっても、浴槽の中でふらついたり、ふとした拍子にバランスを崩すことがあるかもしれません。浴槽で転倒してお湯に顔が浸かるとパニックになった時、お湯を飲んでしまい自分で起き上がれなくなります。では、こんな状況が目の前で起こった時、介護職員はどのように対応すれば良いのでしょうか？



普通は溺れた人を一刻も早く助け出そうとして、身体を浴槽から引き出そうとからだを引っ張り上げてしまいます。しかし、溺れている人は裸で身体が濡れていますので、体重の軽い人でもそうやすやすと身体を引っ張り上げることはかなり難しいのです。体重の重い人ならなおさらです。こうした無理をすると結果的に手が滑るなどして、再びお湯の中に利用者を落としてしまいます。これを何度も繰り返せば本事例のように、重大事故につながります。

#### ■頭を浮かせて呼吸を確保し助けを呼ぶ

浴槽内で溺れた人の身体を引っ張り上げてはいけません。溺れた人を助ける時には、まず呼吸を確保しなければならず、「頭をお湯から上げて浮かせた状態にして呼吸を確保してそのまま助けを呼ぶ」というのが正しい対応です。しかし、相手は気管にお湯が侵入して苦しく恐怖でパニックを起こしていることがあり、ほとんどのケースで暴れてしまいますので、この対応は口で言うほどやさしくありません。

大きな浴槽であれば、介護職員が浴槽に飛び込んで左手で上半身を抱きかかえて、右手で頭を後ろから支えて水面から上げて呼吸を確保できますが、小さな浴槽では中に入ることはできません。浴槽の外から身体を押さえて頭を水面上に保持するのは、難しいかもしれません。場合によっては、利用者の頭を両手で強く持って、浴槽の縁に置いて身体には触れないほうが良いかもしれません。

いずれにしても、呼吸の確保が最優先であって、事故発見者はそこまでしか一人ではできません。身体を浴槽から引き揚げるのは、助けを呼んでその後に行なければなりません。無理に浴槽から引き上げて、そのまま床に頭から真っ逆さまに転落させたら命にかかわる事故につながります。

このような溺水者に対する適切な対応がすぐにできるのは、ライフセーバーの免許を持った人など一部の限られた人であるため、介護事業者はマニュアル化していなければ誰もが適切に対応することは難しいのです。

#### 発行責任者

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社  
マーケット開発部 市場開発室  
担当 堀江・佐伯  
TEL 03-5789-6456

#### 担当課・支社 代理店

株式会社福祉施設共済会  
東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSTビル  
電話03-5466-0881 FAX03-5466-0882